



# 心を埋める 2



karinomaki

karinomaki

## 失くしたものの、恋

---

人生は、失っては築く、という繰り返しから成り立っています。以前、fc2小説にも同じタイトルのものを書きましたが、当時の私は二度と取り戻せないものを、「物」を使って埋めることしか書けませんでした。今は、毎日の生活の中で、心のすきまを埋める、という大切なことに気がついていきます。

「恋を失う」これはいちばんつらいですね。それと、大切に思っていた人が実はがらんだ心のしか持っていなかったことも、つらいです。「麒麟館グラフィティー」という、私の好きな漫画に、確か同じような言い回しがあります。「大切なものを失うのと、大切だったものがガラクタになってしまうのと、どちらがつらいのか」と・・・。

私は、基本的に、失うことがいちばんきらいです。だから、ガラクタになるほうがましだと思いました。しかし、ガラクタはがれきです。自分で捨てないといけないのです。

### 「失った恋」

私は、恋を失いました。ある、心の醜い女性の深く激しい嫉妬が原因で。しかし、長い間、「失っていた」、ガラクタにしてしまっていた恋は、ある日、私の新しい出会いと共に、輝き出しました。

私は思いました。「ああ、この世では、本当に何かを失うことなど、ないのだ、日常が輝いているだけで」・・・。

私は、重い統合失調症です。恋を失ったのは、相手の男性によるものではなく、相手の男性の奥さんの差別でした。私達は心でつながっていただけだったのに。手もつないではいなかったのに。奥さんは、私の病気を気持ち悪いと言い、私は心を病んで精神病が悪化して精神病院に入りました。そこで私を待っていたのは、前から大好きだった主治医の先生でした。しかし、私は恋を失ったばかりで、忘れる努力をしつつも、心持ち明るく振る舞い、何も感じていないふりをしました。

しかし、絶望が三か月後にやってきました。「ああ、本当に失ってしまった。この世の宝物を。」私は、二週間泣き続けました。しかし、そんな私の狂った頭に、失くした恋の人の声が聞こえました。「心でつながりましょう。」と。しかし、私の涙は止まらず、あまりに泣く私に、看護師は先生に電話をかけました。そのときに私の口から出たセリフ、それは私にも予測できなかった言葉でした。「先生、他の人のことで泣いているけれど、私が本当に好きなのは先生です！！」

## 心変わり？

---

私は心変わりしたのでしょうか。そうではないでしょう。なくしたものを、日常が知らず知らずに埋めていたのです。自傷して運ばれた私に激しく怒りながらも、病院で明るく生活する努力をし、大好きな哲学を部屋で書き続ける私を見守ってくれていた先生は、私の日常をいつしか大きく支えてくれていたのです。

日常をがんばる、そして、苦しみを乗り越える人に、大きな愛が待っています。退院して、また孤独になり、私はもう一度入院しました。私は先生が現れるのを毎日待っていた。しかし、先生との思い出も、終わりを告げました。

私は退院後、観葉植物を買い、二度と入院せず、笑ってすごすことに決め、そんなときに出会った、笑いのつぼがぴったりの男性と、性交渉なしの条件で暮らし始めました。

私は心変わりしたのか・・・それは全くちがうのです。私は、本当に大事なものは、決して失わないで、心の中に生きていと知っているから。

もし、心が空虚なら、毎日を輝かせればいいのです。失うということは、毎日を、「埋める」作業で満たす、幸せの原動力なのです。

笑いでいっぱいの日を送る私は、時々、昔の恋を思います。それは、昔の過ぎ去ったものでなく、今の私の宝物です。生活のありとあらゆるものに、私の大切だった、そして今も大切な愛が息づいています。本当に去ってってしまった人は、心から消えていくものです。その傷が、真剣に愛した人なら、残してはいかないでしょう。大切にしてくれたから、今も大切だから、それは真実の愛なのです。